

平成18年11月9日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

1 1月定例所長会見における千野所長挨拶内容

今月は「品質月間」です。これは、品質意識の高揚や品質管理活動の普及を目的として全国規模で展開されている活動ですが、私どもとしては、こうした機会をとらえて、品質マネジメントシステムのより一層の定着とさらなる業務品質の改善に取り組んでまいりたいと考えています。

新潟県原子力総合防災訓練について

明日、当発電所では新潟県などと合同で原子力総合防災訓練を実施します。昨年(11/9,10)は、国が主催した大規模な防災訓練でしたが、今回は新潟県地域防災計画ならびに原子力事業者防災業務計画に基づく訓練であり、当日は私どもを含めて31機関・約220名が参加する予定です。

想定シナリオは、原子炉の炉心が損傷する事象が発生し、放射性物質が外部に放出される恐れが生じるというものです。このような事象は、多重防護の観点から実際には想定しづらい状況ではありますが、今回は、事前に訓練内容の詳細を参加者に知らせないというブラインド方式にて訓練を実施する予定となっています。

明日、私は発電所で陣頭指揮をとりますが、当発電所からは、オフサイトセンターにユニット所長をはじめ約20名の所員を派遣するなど、総勢約90名が参加して、要員参集、緊急時モニタリング、病人搬送、発電所の緊急時対策室とオフサイトセンターとの連携訓練などを実施します。私どもとしては、このような訓練を通じて、原子力災害の発生・拡大の防止など、万が一の事故に対しても備えを充実するよう努めてまいり所存です。

耐震設計審査指針の改訂に伴う地域説明会について

耐震設計審査指針の改訂(9/19)を踏まえた当発電所の耐震安全性評価実施計画書については、先月18日に原子力安全・保安院に提出しました。今後は、原子力安全・保安院の指示に従った手法によって、当発電所では平成20年12月までに耐震安全性評価を実施する計画です。

実施計画書の概要は、すでに新潟県の技術委員会(10/27)や地域の会(11/1)にてご説明させていただいていますが、発電所の耐震性については、地域の方々にとって関心の高いテーマでもあることから、来週(刈羽村11/14、柏崎市11/15)行う地域説明会を通じて、新耐震指針の概要や当発電所の対応方針、地下探査の調査状況などを直接地域の方々にご説明してまいりたいと考えています。

いずれにしても、耐震安全性評価の結果が出るまでには、約2年間の歳月がかかります。当発電所としては、まずは、先月(10/27)終了した起震車を使った地下探査の調査内容をしっかり解析・評価するとともに、その結果については、様々な場を利用して地域の方々にご説明し、「東電は信頼のおける調査を行い、しっかり

対応している」とご理解いただけるよう努めてまいります所存です。

地域とのふれあい活動について

当発電所では、今月下旬から約2週間の予定で「News アトム」の愛読者や日頃お世話になっている約600名のお宅にカレンダーをお届けするとともに、当発電所に対するご意見をお聴きする活動を展開します。

このような活動は、昨年末、今年夏に続いて3度目となりますが、発電所員が地域に出て皆さまの声を直接聴くことによって、地域の方々からは「何よりも顔を知っていることが、より一層親密感を増す」という声をお寄せいただく一方、所員からも「地域に密着した発電所であることを肌で感じるができる」「市民の目線で発電所を見つめることで、地域の方が何を求めているのか分かる」という感想が聞かれるなど、所員が「地域の一員である」という実感を持つことができる機会となっています。

こうした活動は、私どもと地域との絆を「さらに力強く、太いものにすることにつながる」と考えられることから、今後も、様々なご意見やご要望を頂戴しながら、フェイス-トゥ-フェイスの活動を継続して実施してまいります所存です。

以 上

添付)

- 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- プレス公表(運転保守状況)

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成18年11月)

平成18年11月9日

発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	運転中	第14回 H17.6.14 ~ H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第14回定検による停止												[4号機] ・原子炉再循環系配管の補修工事中。 [6号機] ・10月19日、原子炉冷却材再循環ポンプ(H)の可変周波数電源装置内に設置されている 直流制御電源装置を制御棒パターン調整作業にあわせて交換。(お知らせ済み)
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	運転中	第11回 H17.9.3 ~ H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第11回定検による停止												
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	運転中	第9回 H18.5.12 ~ H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第9回定検による停止												
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第9回定期検査中 停止期間:H18.4.9~	第8回 H16.8.7 ~ H17.4.20 停止期間 H16.8.7 ~ H17.3.25 (231日) (原子炉起動H17.3.22)	第9回定検による停止												
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	運転中	第11回 H17.7.4 ~ H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第11回定検による停止												
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	運転中	第7回 H17.12.10 ~ H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第7回定検による停止												
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第7回定期検査中 停止期間:H18.8.23~	第6回 H17.3.1 ~ H17.8.2 停止期間 H17.3.1 ~ H17.6.23 (115日) (原子炉起動H17.6.20)	第7回定検による停止												

プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

発電所設備利用率(%) (10月末現在)

10月	71.2%
18年度累計	74.7%
運転開始後累計	77.2%

発電所発電電力量(万kWh) (10月末現在)

10月	435,157
18年度累計	3,150,074
運転開始後累計	76,684,745

ドラム缶発生量(本) (H18年度第2四半期)

当期発生本数	930
貯蔵庫累積貯蔵本数	20,324
貯蔵庫保管容量	30,000

使用済燃料貯蔵体数(体) (H18年度第2四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	11,856
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

構内従業員データ(人) (11月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	782	2,371	63%
	刈羽村	72	233	6%
	その他	76	640	14%
	小計	930	3,244	84%
県外		109	684	16%
合計		1,039	3,928	-
		4,967		100%
協力企業社数(社)		538		

「比率」について端数処理の関係で数値と計が合わない場合がある。

来客情報(人) (10月末現在)

	10月	年度累計
地元	3,042	11,357
県内	2,215	16,196
県外	4,540	23,081
国外	67	310
合計	9,864	50,944

今後の主なスケジュール

予定日	内容
11月18日	Team ECO Work!74 里山づくり ACTION IN 柏崎・夢の森公園
11月19日	カムフィーイベント ~たるゲッチュー~(カムフィー)
11月23日	き・な・せ 収穫祭(き・な・せ)
12月7・8日	クリスマスリース教室(柏崎エネルギーホール)
12月9日	クリスマスリース教室(き・な・せ)
12月9日	東京電力 ミュージックライブ アット カムフィー(カムフィー)
12月14日	次回定例所長会見予定
12月16日	そばうち体験教室(き・な・せ)
12月17日	Comfy クリスマス レインブック コンサート(カムフィー)
12月23・24日	サービスホールdeクリスマス

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
	11月2日	7号機	原子炉建屋でのけが人の発生について（公表区分）	- (前回お知らせ文) http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18110201.pdf
	11月6日	-	キャスク保管庫（管理区域）におけるごく微量の放射性物質の確認について（区分）	<ul style="list-style-type: none"> ・10月28日、使用済燃料（6号機、228体、約39トンU）を日本原燃株式会社使用済燃料受入れ・貯蔵施設に搬出。その後、キャスク（使用済燃料の輸送容器）保管庫（汚染のおそれのない管理区域）内の放射線測定を実施したところ、11月2日、保管庫内の吊り具から放射線測定器の検出限界（0.29ベクレル/cm²）を上回るごく微量（約0.31ベクレル/cm²）の放射性物質を検出したため、拭き取りにより除染した。 ・検出された放射性物質は、法令で定める管理区域の基準レベル（4ベクレル/cm²）より十分に低い値であるものの、放射性物質の管理を適切に行うこととする。 (前回お知らせ文) http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/press_kk/2006/pdf/18110601.pdf